

# 女子美スピリッツ2016 〜入江一子展〜

## 画家の軌跡を辿る

### 黒石かおる

本年で100歳を迎えた画家、入江一子。東西の交易の路であるシルクロードに創作のテーマを求め、現在も



「イスタンブールの朝焼け」1974年 130×162cm



上：「敦煌飛天」  
1979年 194×200cm  
左：「トルファン祭りの日(スケッチ)」  
1980年 44.8×75.4cm



入江一子氏近影(2016年7月)

いりえ・かずこ  
山口県出身。1938年女子美術専門学校(現女子美術大学)卒。林武に師事。47年女流画家協会会員。53年女流画家協会賞(56年モ)、独立賞。57年独立美術協会会員、92年会員功労賞。96年『色彩自在』三五館刊、他画集4冊。2000年入江一子シルクロード記念館開館。09年NY日本クラブギャラリーにて個展。12年NY凱旋記念展(日本橋三越、名古屋三越)。13年女子美術賞受賞、日米交換展(NYリバーサイド美術館)、安井賞候補展、日米女流合同展、国際女流美術家クラブ展(ハリ代美術館)等出品。セントラル美術館他個展多数。現在独立美術協会会員、女流画家協会委員、入江一子シルクロード記念館館長。

筆を休めることなく作品を描き続けています。その約80年にも及ぶ画業の中から、代表的な作品を紹介する展覧会が母校の女子美術大学杉並キャンパスで開催されます。

「シルクロードの画家」と呼ばれる入江の原点となるのは20代の頃出会った中国・嫩江の光景。大陸に沈む夕日を受け、真っ赤に染まる水辺の美しさに心を奪われた入江は、以降その色彩を追い求めシルクロードの旅

を続けることとなります。現在までに30数ヶ国の土地を訪問し、色彩溢れる雄大な風景や大陸に生きる人々の営みをモチーフとした作品を数多く発表し、その印象深い鮮やかな表現で鑑賞者をシルクロードの世界へと誘います。

本展では200号の大作とともに、女子美術大学在学中の風景画やスケッチなど20余点を展覧し、「今が一番絵が分かる」と語る女流画家の円熟

の境地に達した軌跡を辿ります。  
(くろいし・かおる)女子美術大学美術館 女子美ガレリア(2ヶ学芸員)

9月9日(金)〜10月31日(月)  
杉並区和田1-49-8  
女子美術大学杉並キャンパス1号館 1階  
☎03(334)046688

### 関連イベント

【対談】入江一子氏画室×福島瑞穂氏画室  
(日時)10月8日(土) 10時40分〜12時10分  
会場 杉並キャンパス7号館7201教室